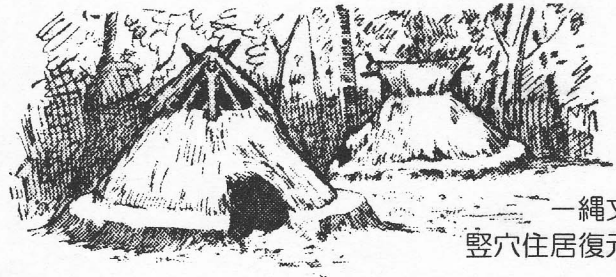
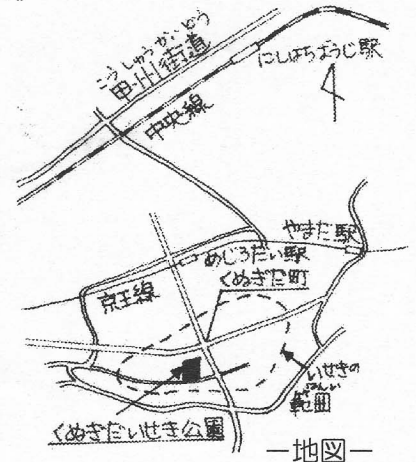


くぬぎだ 櫛田いせき

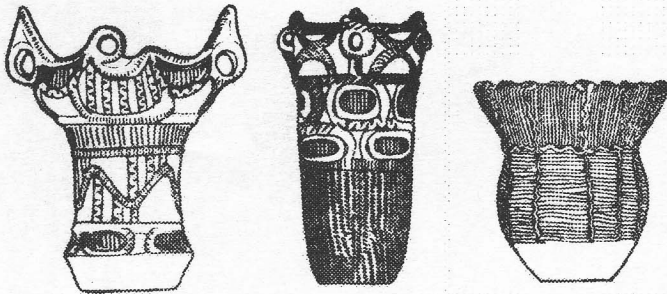


—縄文時代
竪穴住居復元図—

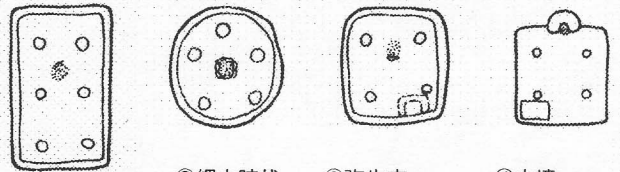
櫛田いせきは、めじろ台駅^{だいえき}から南へ約900メートルのところにある、縄文時代^{じょうもんじだい}の中ごろのむらです。縄文時代^{だてあなじゅうきよ}の人々は、竪穴住居に住み、狩りをしたり、木の実をとってくらしていました。いせきからは、大むかしの人が使った縄文土器^{じょうもんどき}や、石器^{せっき}、土でできた人形^{にんぎょう}などが見つかっています。むらのまん中には、ひろば^{ひろば}がありました。



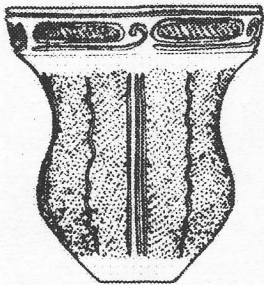
—地図—



—住居のかたち—

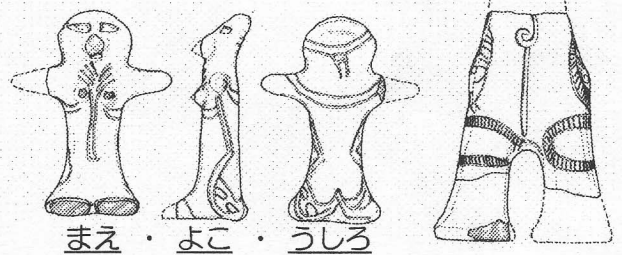


①縄文時代前期 ②縄文時代中期 ③弥生末～古墳初頭 ④古墳～平安時代



—縄文土器—

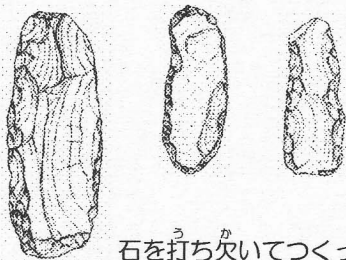
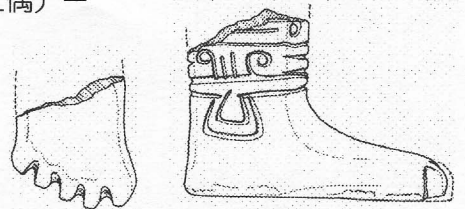
縄をころがして、ねん土にもようをつけているので、縄文土器という。土器は食料を貯蔵したり、いろいろな入れ物として使った。



まえ・よこ・うしろ

—土でできた人形(土偶)—

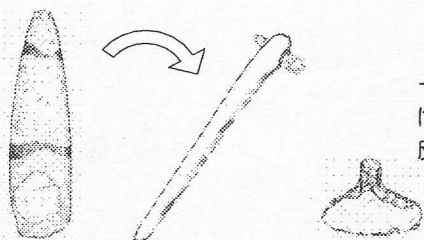
足や顔などからだの一部分だけを形どったものもある。



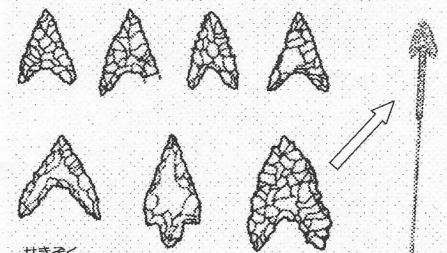
—打製石斧—

石を打ち欠いてつくった石器。土をほる。

—磨製石斧—
石をみがいてつくった石器。木をきる。



—石匙—
けものの皮をはく。



—石鏃—
石でできた矢じり。